



グローバル・フォーラム会報

THE GLOBAL FORUM OF JAPAN BULLETIN, Spring 2005 Vol.6, No.2

「日米韓対話」開催する 「朝鮮半島の将来と日米韓安全保障協力」

グローバル・フォーラム (GF) は、昨年11月19日に東京において、米国タフツ大学フレッチャー・スクール外交政策分析研究所 (IFPA)、韓国延世大学国際大学院 (GSIS) および日本国際フォーラム (JF) との共催により、日米韓対話「朝鮮半島の将来と日米韓安全保障協力」を開催した。

当日は、ウィリアム・ペリー元米国国防長官、キム・ドンシン元韓国国防相など日米韓3ヶ国から関係者85名の参加を得て、米軍再編や六者協議の進展などを中心に、朝鮮半島をめぐる日米韓関係の展望について、議論が行われた。

日米韓安保協力の発展

本会議I「日米韓三国安全保障協力の発展」では、「中国を関与させることが目的の日米韓中露北『六者協議』と同盟国間調整が目的の日米韓『三国調整グループ (TCOG)』では、自ずと役割に違いがあり、両者は引き続き平行して継続すべきだ」という米側出席者の発言を受けて、「中国にとって最優先課題は、北朝鮮の核保有の

阻止ではなく、北朝鮮の戦争あるいは崩壊の予防である」(日本側)、「将来TCOGを公式化し、そこに中露北も取り込めれば、なおよい」(韓国側)などの発言がなされた。

米軍再編と日米韓安保協力

本会議II「米軍再編と日米韓安全保障協力の展望」では、まず米側出席者より「米軍再編の進展に伴い、同盟国間調整の効率化が求められ、日米・米韓同盟の情報共有の必要性が増している」との指摘がなされたが、これに対し「米軍再編により、同盟国間で持てる者と持たざる者のギャップが広がり、軍事態勢のヒエラルキー化が起



本会議の模様



報告するペリー元米国国防長官 (中央)

こっている」(韓国側)、「米軍再編には①距離を縮めた技術的側面、②時間を縮めた精神的側面、③地域を消した地理的側面がある」(日本側)などの発言があった。

六者協議の展望とTCOG

本会議III「六者協議の展望と日米韓安全保障協力」では、まず韓国側出席者から「米国は北朝鮮の『完全かつ検証可能で不可逆的な核廃棄』(CVID)を目標としているが、中露韓はCVIDに固執していない。CVIDの実行方法となると一致はさらに難しい」との問題提起があり、「核問題と朝鮮半島の将来はコインの裏表だ。核問題が解決されない限り、この地域に枠組み作りは無理だ」(米側)、「北朝鮮に対する日米韓の脅威認識が異なっていることが問題」(日本側)などの発言があった。

第15回世話人会開催する 甲斐紀武新世話人選任さる



田章一郎、茂木友三郎、島田晴雄の3世話人が出席した。当日は、新しく甲

さる1月17日、第15回世話人会が東京全日空ホテルで開催され、大河原良雄代表世話人、伊藤憲一執行世話人のほか、豊

斐紀武前チュニジア大使が、有識者世話人に選任された。甲斐新世話人は、1964年外務省に入省し、儀典官、パナマ大使などを経て、2003年退官し、2004年より日本国際フォーラム参与。グローバル・フォーラムでは、常勤の世話人として国際対話の企画、準備、実施を担当する。

なお、当日は、①2004年度活動実績

(ASEAN、中国、米韓との「対話」)報告、②2005年度活動計画案、③2004年度収支決算案(支出総額92,973,712円、収支差額+199,006円)、④2005年度収支予算案がそれぞれ審議、可決された。



第15回世話人会の模様

定例「年次総会」韓昇洙元韓国副首相を囲む夕べ

1月24日、第18回年次総会(夕食会)が開催され、伊藤憲一、甲斐紀武両世話人のほか、阿曾村邦昭、石井一二、伊奈久喜、猪口孝、岩間陽子、大宅映子、行天豊雄、五味紀男、坂本正弘、高橋一生、田久保忠衛、中川正春、永野茂門、長谷川和年、春名幹夫、三好正也、吉富勝の17メンバーが出席した。

冒頭、世話人会(1頁)の審議結果が報告、承認された後、韓昇洙(ハンスン)元韓国副首相・外相をゲストに迎えて「韓国の変化する内政状況とその日韓関係への影響」と題する講演を聴いた。韓元副首相は、ソウル国立大学教授を経て政界に入り、駐米大使、副首相兼財政経済相、外相、国連

総会議長等の要職を歴任された東アジアの誇る世界に通用する数少ないリーダーの一人であるが、当フォーラムとは四極フォーラム時代からの古い仲間であり、当日は伊藤世話人など古い友人たちと夜遅くまでオフレコ・ベースの懇談に耽った。



韓昇洙元韓国副首相(中央)を囲んで

第4回「日・ASEAN対話」

「東アジア共同体」構想が次第に盛り上がりを見せるなかで、日本とASEAN諸国の間の意思疎通や協力提携の必要性はいよいよ高まっているが、これを受けて当フォーラムは、2002年2月、2003年1月、2004年7月と過去3年間毎年「日・ASEAN対話」を開催してきた。

本年もきたる6月12-13日に第4回目の「日・ASEAN対話」を開催することがほぼ固まり、現在共催相手のASEAN戦略国際問題研究所連合(ASEAN-ISIS)と連絡を取り合いながら、その準備を進めている。

ASEAN-ISISを代表する調整窓口はインドネシアの戦略国際問題研究所(CSIS)であるが、3月25日にはハディ・セサストロCSIS所長が来日し、当フォーラムの甲斐紀武世話人、渡辺蘭事務局長らと協議し、今秋の「東アジア・サミット」開催を見据え、「対話」のテーマを「東アジア共同体への展望と地域協調」とすること等を決めた。当日は「普遍的価値に基づいた開かれた共同体」、「機能的なアプローチの推進」、「共同体形成へのASEANの役割」をサブテーマに取り上げ議論する予定。

フォーラム活動日誌(12-2月)

- 12月15日第11回補佐人会(2頁)
- 12月17日第169回国際政経懇話会(吉川元偉中東アフリカ局長他24名)
- 1月17日第15回世話人会(1頁)
- 1月24日第18回総会および韓昇洙元韓国副首相を囲む夕べ(2頁)
- 1月25日第7回外交円卓懇談会(Andrew Smithers Smithers&Co. 会長他8名)
- 2月23日来日した文正仁韓国東北アジア時代委員会委員長と「日韓政策対話」協議(甲斐紀武世話人、渡辺蘭事務局長)
- 2月25日来日したHadi Soesastroインドネシア戦略国際問題研究所長と「日・ASEAN対話」協議(甲斐世話人、渡辺事務局長、佐野剛志事務局長)

「日韓政策対話」開催迫る

本『会報』既報のとおり、当フォーラムが協力し、東アジア共同体評議会(中曽根康弘会長)と韓国東北アジア時代委員会(文正仁委員長)が共催する「日韓政策対話:東アジア共同体の展望と日韓協力」が、きたる4月27-28日に東京で開催されることが確定した。2月23日には文委員長が来日して、当方関係者と最終的打合せを行った。

補佐人会開催

昨年12月15日に第11回補佐人会が開催された。当日は、豊田章一郎、茂木友三郎各経済人世話人によって指名された笠間正治トヨタ自動車渉外部企画室長、清水和生キッコーマン経営企画室参事の両補佐人によって当フォーラム2004年度収支決算案の監査が行われた。証拠書類等を精査した後、両補佐人から「適正である」と認められた。

■新規入会メンバーの紹介

(12-2月分、入会順)

[有識者メンバー]

甲斐 紀武 日本国際フォーラム参与
谷野作太郎 元駐中国大使
深川由起子 東京大学教授
浦田秀次郎 早稲田大学教授

[政界人メンバー]

前原 誠司 衆議院議員

事務局便り

これまで書架専用だったスペースを改造して、グローバル・フォーラム事務局長室が新設されました。

窓がないのが欠点ですが、渡辺事務局長は「快適で、時間を忘れます」と、大喜びで仕事に打ち込んでいる。

謝 辞

当フォーラムの諸活動の主要な財政的基盤は、その経済人世話人および経済人メンバーの所属する企業の納入する賛助会費にあります。

現時点における賛助会費納入企業は、下記の13社21口です。ここに特記して謝意を表します。

[経済人世話人所属企業] [5口]

トヨタ自動車 キッコーマン

[経済人メンバー所属企業] [1口]

住友電気工業 鹿島建設 新日本製鐵
東京電力 三井住友銀行 旭硝子
東京三菱銀行 日本電信電話
富士ゼロックス ビル代行
松下電器産業

(入会日付順)



グローバル・フォーラム会報
2005春季号
(第6巻 第2号 通巻第22号)

発行日 2005年4月1日
発行人 伊藤 憲一
編集人 渡辺 蘭

発行所 グローバル・フォーラム
〒107-0052 東京都港区赤坂2-17-12-1301
[Tel] 03-3584-2190 [E-mail] info@gfj.jp
[Fax] 03-3589-5120 [URL] http://www.gfj.jp/